
研究課題

知的障害特別支援学校における「特別の教科 道徳」の授業開発

副題

～資料の理解、意見の表出等を補助するデジタル教科書を活用して～

キーワード

「特別の教科 道徳」 デジタル教科書 知的障害特別支援学校

学校名

東京学芸大学附属特別支援学校

所在地

〒203-0004
東京都東久留米市氷川台 1-6-1

ホームページ
アドレス

<http://www.u-gakugei.ac.jp/~tokushi/>

1. 研究の背景

平成 29 年 4 月特別支援学校小学部・中学部学習指導要領が公示された。ここでは「道徳の時間」が「特別の教科 道徳」として新たに教育課程上に位置付けられており、特別支援教育においても今後益々の道徳教育の充実が求められている。一方で、特別支援教育における道徳教育は先行研究が非常に少なく、具体的な教材及び指導方法について数多くの実践が蓄積されているとは言い難い現状がある（細川・眞城・磯山,2017）。

本校（幼稚部から高等部までの 4 学部からなる知的障害特別支援学校）では、教育課程に「道徳の時間」を位置付けておらず、生活の中の具体的な場面や活動を通じて物事を指導することが有効であるという知的障害の障害特性を踏まえ、教科別の指導、領域別の指導、各教科等を合わせた指導の中で適宜、子供たちの道徳性の育成を図っている。

これまで本校では、簡略化した読み物資料を用いて小学部や中学部、高等部において試験的に「道徳の時間」の授業を実施してきた（齋藤,2014）。しかし、言語理解に困難を抱える児童生徒にとって、入口（資料の内容の理解）の段階でつまずき、登場人物の心情にまで学習が進まないことが多く、仮に話の内容や登場人物の心情を理解できる児童生徒であっても、表出の手段が話しことば（意見）や書きことば（感想の記入など）であると、出口（自分の意見の表出）の段階でのつまずきが見られた。このように、読み物資料を用いた一般的な「道徳の時間」の指導方法では、自己の生き方を考える前段階で幾つもの障壁が存在した。

知的障害特別支援学校高等部においては、「道徳の時間」が学習指導要領上に位置付けられている。そこで、昨年度本校高等部の 1 クラスを対象として、1）資料を映像化し提示すること、2）個々の言語発達水準に応じたワークシートを利用すること、の 2 点をポイントに「道徳の時間」の授業を行った。その結果、生徒がより資料の内容を理解できたり意見をより活発に表出したりする姿などが授業内で多く見られ、これまで知的障害特別支援学校における「道徳の時間」の障壁とされていたものを取り除くことができる可能性が示唆された。

2. 研究の目的

本研究では、先述した 2 点を含む生徒用デジタル教科書の作成と、それを主に用いた知的障害特別支援学校の中学部・高等部における「特別の教科 道徳」の授業開発を行うことを目的とした。知的障害特別支援学校においては、通常学校のように「道徳の時間」を設定し年 35 時間の中で 4 つの内容項目（「A 主として自分自身に関すること」「B 主として他の人とのかかわりに関すること」「C 主として生命や自然、崇高なものとの関

わりに関すること」「D 主として集団や社会とのかかわりに関すること」を万遍なく扱うことは現実的ではないと考える。永田（2016）が「子供の障害の状態や経験等を踏まえて内容の重点化を図ること」と指摘しているように、生徒や保護者、そして教員の意識を調査し重点化する内容項目を定めた上で、行事等と有機的に関連されながら「道徳の時間」の授業開発を行っていく必要がある。特別支援教育における道徳教育に関する具体的な教材及び指導方法の蓄積が少ない現状の中で、有効な教材と指導方法の開発を目指す本研究が、他校が道徳教育に取り組む際の参考の一つになればと考える。

3. 研究の経過

本研究は、道徳の教科化を見据え設置された「道徳教育特別委員会」（小学部教員 1 名・中学部教員 2 名・高等部教員 1 名）が中心となって推進した。研究の経過は表 1 の通りである。

表 1 研究の経過

時期	取り組み内容	評価のための記録
4 月	保護者・教員へのアンケート調査・集計 中学部・高等部において 重点化する内容項目 の決定	アンケート調査
5 月～	対象とする中学部・高等部の学級の決定	
6 月	重点化する内容項目に基づいた 教材の作成	
7 月	授業（中学部：「 <u>B 礼儀</u> 」）	授業記録
9 月～	研究授業（中学部「 <u>A 個性の伸長</u> 」）・授業研究会	授業・研究会記録
1 1 月	研究授業（高等部「 <u>A 節度・節制</u> 」）・授業研究会	授業・研究会記録
1 2 月	中学部・高等部における授業実践の成果と課題の整理	
1 月～	授業（中学部「 <u>A 誠実</u> 」）	授業記録
2 月	授業（高等部「 <u>B 尊敬・感謝</u> 」）	授業記録
3 月	研究のまとめ 平成 31 年度道徳教育全体計画の作成	

1) 保護者・教員を対象としたアンケート調査

○保護者を対象としたアンケート

永田・藤澤（2012）を参考に、中学部の保護者 6 名を対象として「重視したいと考える道徳の内容」（7 つまで複数回答可）についてアンケート調査を実施した。その結果、図 1 の通り「勤労」を 6 名中 5 名が選択しており、保護者の最も多くが重視したいと考える内容であった。その次は 4 名が選択した「基本的な生活習慣、節度・節制」「個性の伸長」「思いやり・親切」となった。内容を、「A 主として自分自身に関すること」「B 主として他の人とのかかわりに関すること」「C 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」「D 主として集団や社会とのかかわりに関すること」に大別して見てみると、「A 主として自分自身に関すること」「B 主として他の人とのかかわりに関すること」の内容が多く選択されたのに対し、「C 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」の内容はほとんどなかった。

○中学部・高等部の教員を対象としたアンケート

本校中学部及び高等部の教員計 12 名に対し、保護者と同様のアンケートを実施した。その結果、図 2 の通り最も多くの教員（10 名）が選択した内容は「尊敬・感謝」「生命尊重」であった。内容を大別して見てみると、「A 主として自分自身に関すること」「B 主として他の人とのかかわりに関すること」の内容が多く選択さ

れており、保護者の結果（図1）と同様の傾向を示した。

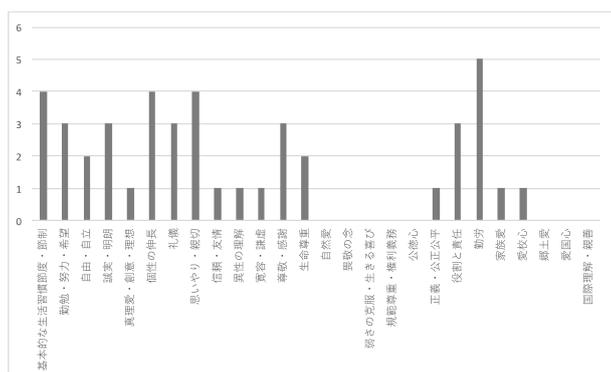


図1 重視したい内容項目（保護者）

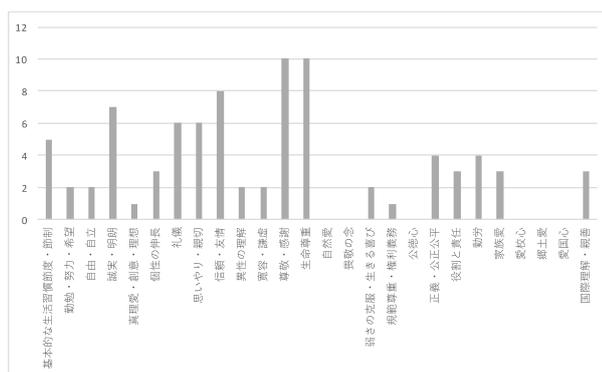


図2 重視したい内容項目（教員）

○保護者・教員を対象としたアンケート結果と重点化する内容項目

重視したい道徳の内容項目については、保護者教員ともに「A 主として自分自身に関すること」「B 主として他の人とのかかわりに関すること」の内容が多く選択されるという傾向を示した。特に、「基本的な生活習慣節度・節制」「誠実・明朗」「個性の伸長」「礼儀」「思いやり・親切」「尊敬・感謝」が多く選択されていた。以上のアンケート結果をもとに、中学部・高等部において重点化する内容項目は「A 主として自分自身に関すること」と「B 主として他の人とのかかわりに関すること」の2つとした。

2) 生徒用デジタル教科書

生徒用のデジタル教科書は、iBooksAuthor で作成した後に iPad のアプリ iBooks にダウンロードし、一人一台の環境で使用した（写真1）。

デジタル教科書を作成した目的は、資料の理解及び意見の表出を補助することであった。それぞれの点について、実際のデジタル教科書の画面例を示しながら以下に説明する。



写真1 デジタル教科書を使用する様子

○資料の理解について

生徒の資料の理解を助けるために、資料は動画、イラスト+文字（音声読み上げ）の2パターンを作成した。9月に実施した中学部研究授業を例に挙げると、この授業ではNHK for School の動画を活用したため、iBooks のページには動画へのリンクを貼った（図3）。また、イラストはNHK for School で公開されているものを使用し、同ページに文字を記載しボタンをクリックすると記載された文字の音声が出されるようページを構成した（図4）。

実際の授業では、①テレビ画面上で教師が資



図3 動画再生ページ

料の動画を流し生徒が一齐にそれを見る、②資料のさらなる内容理解のために個々に自分が利用したいパターンで資料を確認する、といった流れとした。

○意見の表出について

一般的な「道徳の時間」で繰り返される、「○○はどのような気持ちになったでしょうか?」「○○はなぜ△△したのでしょうか?」などの how や why の質問に対する回答には、高度な認知機能や言語機能を必要とするため、知的障害のある生徒にと 図4 イラスト+文字 (音声読み上げ) ページ



っては応えにくいものが多い。そのため、授業に参加する全ての生徒の意見の表出を目指し、授業内で教師がする質問には必ず選択肢を用意することした (図5)。また、自分の考えの根拠などについて明確に答えることのできる生徒が一部はいるが、そうではない生徒もいるため、「友達の考え」というページも作成し、自分が考えた根拠に近い (架空の) 友達の意見を参考にしても良いこととした (図6)。



図5 選択ページ

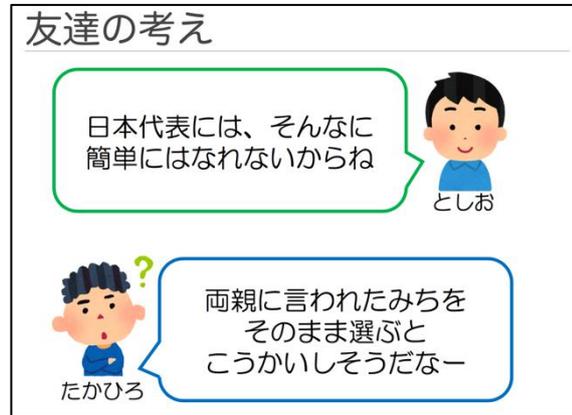


図6 「友達の考え」ページ

4. 代表的な実践

1) 中学部研究授業「将来の夢・やりたい仕事」(A個性の伸長)

中学部3年生の6名を対象に、「将来の夢・やりたい仕事」の授業を行った。障害種は知的障害、ダウン症、自閉症と多様であり、全員が有意味な音声言語を獲得しているものの、言語理解・表出面における個人差はかなり大きい集団である。扱う内容項目に関しては、「A個性の伸長」を選択した。中3の生徒たちはこれまで進路の学習を積み重ねてきており、中には本校高等部に進学するか他校高等部に進学するか悩んでいる生徒もいた。そのため、資料を通して、生徒が自分自身の進路をより主体的に考えて欲しい



と考え授業を設定した。授業では、教師が資料となる動画を見せた後に、生徒にデジタル教科書を渡し、自分の好きな方法で資料の理解を深めて欲しいと伝えた。全ての生徒がすでにデジタル教科書の利用経験があったため、スムーズに操作することができ、動画を見直したり音声読み上げを聞いたりして資料に対する理解を

個々に深めていた。しかし、資料の内容を確かめる質問をした際に、十分に内容の理解ができていない生徒がいた。そのため、**生徒にデジタル教科書を渡す前に、資料の内容に関する質問等を提示し、資料の内容理解のためのポイントを示しておくことが今後の課題となった。**

意見の表出の段階では、全ての生徒が選択肢から自分の意見を選ぶことができていたが、やはり理由を明確に表出することができた生徒はほとんどいな 写真2 意見をワークシートに記入する生徒
かった。そこで、「友達の考え」ページを見るよう促すと、ページ上の意見をもとに生徒たちが自分の意見を述べ始めた。そこで、自分自身の意見をまとめる時間をとるため、ワークシートへの記入を促した。デジタル教科書を活用する部分と、紙に書いて考えをまとめる時間をとるなど、**意見の表出段階におけるデジタル教科書の利用方法**が今後の課題となった。

2) 高等部研究授業「自分で生活をコントロールしよう」(A 節度・節制)

高等部1～3年生の12名を対象に、「自分で生活をコントロールしよう」の授業を行った。障害種は、知的障害、ダウン症、自閉症と多様であるが、家庭でネット検索を長時間続けてしまったり、友達との SNS をやり過ぎてしまったりするといった様子が多くの生徒に見られた。そこで、主体的に自分の生活をコントロールできるようになった欲しいと考え、「A 節度・節制」を選択した。授業では、ネットモラルに関するアニメ動画を資料として扱った。その後、インターネット、SNS、メールの使用に関して実際に生徒自身に行ったアンケートを集計しそのグラフを教材として使用し、動画の登場人物との共通点を見出し、生徒が授業の内容を自分の事として捉える事ができるようにした。デジタル教科書では、資料全体を文字情報で一覧できないという課題があったため、**資料の文字情報が記載されたプリント**を生徒に配布した。動画では内容が分かりやすい一方で情報が流れてしまうというデメリットがあったが、プリントがある事でそれをもとに資料の内容理解を進める生徒もいた。

5. 研究の成果

本研究では、生徒用デジタル教科書の作成と、それを主に用いた知的障害特別支援学校の中学部・高等部における「特別の教科 道徳」の授業開発を行うことを目的としていた。デジタル教科書に関しては、動画やイラスト、文字（音声読み上げ）など多様なメディアを搭載する事が可能であるため、生徒が資料の内容を理解するのに確実に役立った。意見の表出に関しては、選択肢を用意する事で全ての生徒の意見を聞きそれを全体で共有する事ができた一方で、紙に書く事によって思考を整理することを好む生徒がいたため、デジタル教科書のみでの活用ではなくアナログの手段とも組み合わせて使用していくことがより有効であろう。

「特別の教科 道徳」の授業開発に関しては、これまでの本校の授業実践をも含め“知的障害特別支援学校における道徳教育のポイント”を以下に示す。

(1) ニーズを捉えた内容項目の重点化

- ・内容項目に関しては、発達年齢のみならず生活年齢を十分に考慮するとともに、本人や保護者、教員のニーズを把握した上で重点化することが重要である。

(2) 興味関心を強く惹く教材

- ・生活年齢が低い子達（小学部）にとっては、授業への入り口として非常に大切な部分である。

(3) 読み物資料以外の活用

- ・文字の読み書きに困難を抱える子どもへの配慮として、読み物資料



写真3 寸劇（小学部）

以外の活用（写真3）を視野に入れる必要がある。

（4）他の教育活動との継続的・発展的な連携／複数の時間扱い

- ・行事やその他の授業と関連させながら、道徳の時間を位置づけていくことでより効果的である。繰り返しの指導の中で理解を深めていくという知的障害児の特性を考慮することが重要である。

6. 今後の課題・展望

今年度製作することができたデジタル教科書は5冊であった。デジタル教科書のデータは校内にサーバー上にiBooksのデータとして保存しているとともに、編集可能なiBookAuthorのデータとしても保存している。つまり、そのまま使用することも可能であるが、生徒や学級の実態に応じてカスタマイズすることも可能にしている。しかし、iBookAuthorを使ったデジタル教科書の作成等に関する教員研修を実施することができなかった。そのため、今後は「特別の教科 道徳」のより有効なデジタル教科書の作成、アナログな手段との融合とともに、教員研修を行うことによってまずは校内の教員に対し成果を上げていきたいと考えている。

7. おわりに

今回の研究を一つの契機として「道徳教育特別委員会」が設置され、これまで本校では作成されていなかった「道徳教育全体計画」を作成することができた。このことを通じ学校全体として道徳教育を考えていこうという気運が高まった。

8. 参考文献

- 1) 細川かおり・眞城知己・磯山多可子（2017）知的障害特別支援学校における道徳に関する検討－生活単元学習での取り扱いとより明確な位置付けの模索－.千葉大学教育学部研究紀要（65）,129-136.
- 2) 永田繁雄（2016）特別支援教育における道徳教育の充実に向けて.特別支援教育（61）,14-17.
- 3) 永田繁雄・藤澤文（2012）道徳教育に関する小・中学校の教員を対象とした調査－道徳の時間への取組を中心として－<結果報告書>.
- 4) 齋藤大地（2014）かかわりをはぐくむ道徳の時間：特別支援教育×道徳で幸せ教室づくり.道徳教育,22-24.
- 5) 染川功次（2011）生徒一人一人の豊かな心を育む特別支援学校高等部における道徳教育－障害の程度が比較的軽い知的障害のある生徒の生活に結び付いた道徳教育の在り方－.鹿児島県総合教育センター平成 23 年度長期研修研究報告書.